Bチームのテーマ： 学習環境の充実

学生の学習環境の充実に向けた取組

メンバーの実体験から始まった問題意識を、過去の提言や利用者の声で具体化。**学習場所の情報を届ける仕組み** づくりを進めています。

> **現在の取組** GISによる地図・リストでの施設案内を試作し、学生向け施設・イベント情報ページとの連携も検討しています。

検討の経過と今後の展開

メンバーの経験から出発し、過去の提言や利用者の声で課題を確かめながら、具体策へ進んできました。

STEP 01
実体験での気づき
混雑や居場所の問題から、学習場所の不足を実感

→

STEP 02
原因の仮説
利用場面を考え、場所・認知・情報の課題を整理

→

STEP 03
声と実態の調査
提言、過去の取組とアンケートからニーズを確認

→

STEP 04
課題の捉え直し
新規整備だけでなく、情報の届き方と継続性にも着目

→

STEP 05
実装と今後の展望
GIS試作・意見反映を進め、場所と機会の拡充へ

STEP 01 問題意識

出発点は、チームメンバーの実体験

受験期に勉強する場所を探して困った経験を持ち寄り、学習環境の課題を考え始めました。

メンバーの実体験 01

受験時期、学校と塾は人がいっぱい。ほかに行く場所がなく、寒空の下、リバーウォークのオープンスペースで勉強したことがある。

メンバーの実体験 02

図書館で勉強中に地域No.1高校の学生がいっぱい来て、居心地が悪くて彷徨ったが、人が少ない場所が見つからなかった。

当初の仮説 家や学校以外で落ち着いて学べる場所が不足し、学生が学習環境を確保しにくいのではないか。

利用場面を具体化し、原因を仮説として整理

自宅以外で勉強したい中高生を想定し、場所が見つからない状況の背景を整理しました。

検討のために設定した場面

休日や試験前、図書館に行っても学習室が満席で使えない。

※実態調査の結果ではなく、当初の想定場面

原因として考えたこと

01 学習場所・座席数が足りない

02 利用できる別の施設を知らない

03 利用場所や条件の情報が探しにくい

目指す姿 学生が学習場所の選択肢を知り、自分に合った場所を選んで利用できる。

みらい政策委員会の提言から、学生の要望を確認

過去の「みらい政策委員会」の提言を入手。場所の活用と情報発信に関する学生の要望を、趣旨を整理して紹介します。

学生の提言 01

市民センターを、**勉強できる場所**として活用してほしい。

学生の提言 02

自由に勉強できる**スペースをもっと増やして**ほしい。

学生の提言 03

勉強できる場所を**もっと分かりやすく発信**してほしい。

提言から得た視点 場所を増やすだけでなく、既にある場所を知ってもらうことも求められている。

過去の取組と利用者の声が、改善の根拠に

以前の学習マップのアンケートから、施設情報をまとめる価値と、継続・利用条件・周知への要望を確認しました。

以前の取組

期間限定の施設一覧

学習場所をホームページ上の一覧表で紹介。期間限定で、継続方針や情報更新の体制が定まっていませんでした。

利用者アンケートの声

「ずっと公開してほしい」
図書館以外にも自習室があると知った。終了後にまた探し直すのは負担。

「事前に利用条件を知りたい」
席数や、飲み物・軽食の可否を知ってから利用したい。

「利用しやすさと周知も大切」
無料の場所が欲しい。市民センターは入りづらいので、学校等でも周知してほしい。

今回の改善の方向性 **継続公開と更新体制** を前提に、席数・利用条件などの情報と周知を充実させる。

仮説に加え、学生の声から課題を再整理

「学習場所が足りない」という出発点に、提言と利用者アンケートで確認したニーズが加わりました。

当初の仮説

学習場所や座席数が **足りない** のではないか。

→

調査で確認したニーズ

場所の認知・利用条件・継続公開 への要望も大きい。

課題の捉え直し 場所を増やす検討に加え、既存の場所を学生に届け、継続して探せる仕組みが必要。

調査で得た根拠を、二つの取組へつなげる

実体験から立てた仮説を、過去の提言と利用者アンケートをもとに見直し、「情報の提供」と「機会の拡充」を二本柱に整理しました。

判断の材料 メンバーの実体験 / みらい政策委員会の提言 / 過去マップの利用者アンケート

先行して取り組む

情報の提供

既存の学習場所を、学生が **知り・探し・選べる** ようにする。

施設情報の集約、地図・リストでの案内、継続的な更新

中長期の検討

機会の拡充

新たな学習場所や、学びを支える **機会そのもの** を増やす。

新たな場所の開拓、地域人材と連携した学習支援

進め方： まず情報提供を充実させ、場所・機会の拡充へつなげる。

従来のリスト形式に、地図で探す方法を加える

以前の一覧ページを発展させ、場所を地図でも探せるようにするとともに、継続的に更新できる仕組みとしてGISを検討しました。

これまで

施設リストによる案内

ホームページに施設を一覧で掲載。位置関係を把握しにくく、更新を継続する仕組みも課題。

→

検討した方法

GISによる地図表示

施設の位置関係を地図で確認でき、一覧も併用して探せる。

GIS担当部署との協議で確認したこと

GIS担当部署がマップ構築を支援でき、施設所管課等と情報更新を分担できると分かりました。

STEP 05 既存事業との連携

GISと学生向け情報ページを補完的に活用

子ども家庭局で進む施設・イベント情報ページの整備とも協力し、異なる用途を組み合わせた案内を検討しています。

GIS

場所から探す

学習できる施設を地図で確認し、所在地や利用条件などを調べる。

学生向け施設・イベント情報ページ

情報から知る

季節のイベントや学生向け施設・活動の情報を知る。

現在の方針 まずは両者を併用し、学生が目的に応じて使える形を検討する。 **相互の連携方法は調整中** です。

公開後は実際の利用状況や学生の意見を踏まえ、今後の運用方法や統合の要否を検討します。

試作した学習場所マップの画面



早鞆中学校の生徒にサンプルを見てもらった

実際の画面を使いながら意見を聴取。普段の利用と新しい場所探しで異なるニーズを、発言の趣旨を整理して紹介します。

生徒の声 01｜普段の利用

普段は決まった場所に行くことが多いので、 **リスト表示の方が見やすい** 。

生徒の声 02｜新しい場所探し

校区外の町名はあまり知らない。自宅の近く以外を探すなら **地図が分かりやすい** 。両方あるとありがたい。

生徒の声 03｜掲載情報

施設の **定員** を知りたい。住所から周辺マップが見れると便利。

生徒の声 04｜学習場所の認知

学校や図書館以外にも勉強できる場所があることを **知らなかった。もっと知りたい** 。

試作への反映 地図とリストの併用、現在地の周辺施設を一覧で示す機能を試行。定員情報は掲載予定。

STEP 05 施設側との調整

施設ごとの運用を尊重して掲載する

施設側にも取組の趣旨を説明し、各施設の実情に合わせて掲載希望や利用条件を確認する進め方としました。

01 趣旨説明

取組を共有

学習場所の情報を届ける目的を施設側と共有する。

02 施設側の確認

掲載希望を把握

施設ごとの取組や利用条件を踏まえ、掲載可能な場所を確認する。

03 掲載内容の整理

情報を取りまとめ

施設の意向を踏まえて、掲載する場所・内容を調整する。

運用の基本 一律の運用を求めず、各施設の意向や利用条件を確認したうえで、**掲載可能な施設から段階的に拡充**します。

STEP 05 運用体制

特定の職員に依存しない仕組みへ

施設情報の提供・取りまとめ・GIS更新を役割分担し、継続して運用できる体制を目指します。

施設情報

施設所管課

図書館・市民センター等の掲載希望、情報・変更点を提供

→

全体統括

子ども家庭局

掲載・更新を取りまとめ、継続運用を担う

→

マップ管理

GIS担当部署

構築支援・技術調整・一括更新を担当

PTの役割 初期構築に向け、掲載項目の整理や関係部署間の調整を支援します。

現在地 実施状況

学生と施設の声を踏まえて試作を調整中

基本的な構築方針を整理し、サンプルでの操作確認や掲載内容の調整を進めています。

8〜9月	関係部署との協議、GIS活用方針・役割分担の整理	**実施**
9〜10月	GISサンプル作成、早鞆中学校への提示、施設側との調整	**実施・調整中**
現在	リスト・地図・現在地周辺の表示を試行し、定員等の掲載項目や実装方針を整理・報告	**調整中**
年度後半	施設情報の収集、マップの公開・運用に向けた調整	**予定**

当面の作業 試作の改善と並行し、施設の希望・利用条件を確認して掲載内容を確定していきます。

これから

効果検証

公開後は利用状況を見て改善する

使われるマップになっているか、情報更新が続けられるかを確認し、掲載内容と運用方法を見直します。

見つけてもらえたか

サイト閲覧数・アクセスの状況

利用につながったか

認知度や利用経験に関する学生の意見

選択肢が広がったか

掲載施設数・施設情報の充実度

継続できているか

更新の状況・所管課の運用負担

検証結果を踏まえ、 **リスト・地図の見せ方、掲載項目、GISと既存サイトの運用方法** を見直します。

学習できる「場所」と「機会」を広げる

情報を届ける仕組みを土台に、学習場所の開拓と、地域資源を生かした学習機会の充実を検討します。

01　現在の取組

情報を届ける

GISと学生向け情報ページで、場所を知り、選べる環境を整える。

02　今後の検討

場所や開設時間を拡大する

身近な場所で集中して学習できる環境を提供するため、市民センターをはじめとした公共施設の会議室に加え、民間の場所等も視野に、受験シーズンに学習室として常時開設を検討する。

03　今後の構想

学習機会を拡充する

地域の人材と活動場所を結び、**学習支援等の機会の創出** を検討する。

今後の進め方　まず情報を届ける仕組みを定着させ、関係部署・地域と協力しながら小さな実践につなげる。

※場所・学習機会の拡充は今後の検討構想です。